

地域生活交通に係る調査特別委員会 摘 録

1. 開 催 日 令和8年8月12日(水) 第2委員会室
2. 出席委員 谷口隆明委員長 前田智永副委員長 松本みのり 堀井慎一郎 桜田亮太 堀内富夫
桂藤和夫議長
3. 欠席委員 なし
4. 事務局職員 横山和昭議会事務局議事調査係長 橋本和憲議会事務局主任主事
5. 説明員 なし
6. 委員外議員 福山権二副議長
7. 傍 聴 者 1名(うち議員 青山学)
8. 会議に付した事件
1 付託事項の審査について

午前9時59分 開 議

○谷口隆明委員長 ただいまより地域生活交通に係る調査特別委員会を開催いたします。本日の委員会において、傍聴、写真撮影、録音、録画を許可しています。

1 付託事項の審査について

○谷口隆明委員長 今日、ケア会議等へのヒアリングの日程が決まりましたし、既に比和では開始されていますので、日程の確認と、比和での状況の説明や、当日の進行等について具体的に打ち合わせをしたいと思います。御手元に資料として聞き取り調査のスケジュールを入れさせてもらっていますので御確認ください。B班は基本的には8月で終わりで、A班は8月20日に庄原の地域ケア会議、10月に西城と東城の地域ケア会議に出させていただくことになりますので、よろしくお願いします。これは特に御意見はないと思います。8月10日に比和で最初に行われましたので、本当はこれより先に委員会を開きたかったのですが、日程上、今日になりました。比和の状況について説明していただきたいと思います。

○前田智永副委員長 比和地域については、先日8月10日の月曜日に会議に参加させていただいて、ヒアリング、聞き取り調査をさせていただきました。ヒアリングシートについては、事前に保健師さんまたは支所の職員さんからそれぞれの委員さんにお渡ししてくださっていたのですが、失念されていた方が半数程度おられまして、書いていた方はその場に持参してくださっていたので、それを見ながらお話をさせていただくことになりました。ヒアリングシートの取り扱いについては、他の地域では事前にまとめられているところもありますし、それぞれの地域に合わせていいのかなと思いました。比和地域の会議の内容としましては、個別事案も含めて、最近こういったことがあった、こういう困ったことがあった、地域外に出られている若い方にどうつないでいくかというのは地域の隣近所のつながりが日頃から大事だというお話から、救急搬送されたときに、地域の熱意のあるといいますか、すごく親切な方がこの人にもあの人にも親切にされていて、買い物などに連れていってあげたり、救

急搬送のときについて行ってあげたりといった献身的なサポートをしてくださる方がいるのでとてもありがたい。ただ、その方がおられなくなった場合に、今後のことを考えると不安がたくさんあるので、どういったことがいいたろうかといったそれぞれの御意見もいただきました。解決にはもちろん至らないのですが、そういった個別事案も含めて、地域のことをよく御存じの方々にお話を伺うことができたので、大変有意義な会議になったかなと思います。まだまとめは作成できていませんが、松本委員と堀内委員にも一緒に協力してもらいながらまとめをつくって、また皆さんにお示ししたいと思います。

○谷口隆明委員長 東城のアンケートは、10月に行う予定で7月末にお願いしていたのですが、8月の最初のケア会議で配られて、その場で書いていただいて、10日に回収しに行きました。その内容について、若干報告しておきたいと思います。ケアマネジャーさんと市の地域包括ケアの職員さんが18人参加されて、それから、アンケートを取りに行ったときにたまたま保健師さんに市民の方から相談があって、誰か議員にも話がしたいと言われて、たまたま私がそこに行ったので1人アンケートを書いてもらって、19人の方にアンケートを書いていただきました。過去1年間のうちに夜間や救急搬送後に帰宅手段がなくて困ったという方が19人中7人おられました。具体的にはここにケースを書いているので見ていただければいいのですが、今、前田副委員長から話がありましたように、基本的には知人や親戚の好意に甘えているけれども、それは非常に遠慮だし、そればかりではいけないので何か行政としても基本的な対策を考えてほしいという意見がたくさんあったように思います。これは後で読んでいただければと思います。今後の仕組みについても、それぞれ皆さんに、できることとできないことがあると思いますが、書いていただいていますので、じっくり読んでいただければと思います。あわせて、西城の地域ケア会議も、9月の会議で配布して書いてもらって、できたら議会事務局へ返送するとのことでしたので、それもまだでき次第皆さんにお知らせしたいと思います。

○前田智永副委員長 本日の会議のところに、参考資料というフォルダを事務局につくっていただきました。事務局にいろいろと上げていただいています。庄原市の移動支援策に係る資料を開いてください。令和8年6月10日、地域交通課調べの移動支援策一覧ですが、地域交通課に御協力いただいて、以前の会議で、それぞれの課をまたぐ支援策がいろいろあるのをまとめて一覧にしたものがあつたほうがいいのではないかと。公式なものではないので、市民の方にお示しするわけではなく、委員の皆様の手持ち資料として扱っていただければいいなと思います。それぞれの課の支援策をまとめて一覧にしたものです。高齢者福祉課であつたり、社会福祉課であつたり、様々なところのを一覧にしたものを作成してみましたので、こういったものがあるということを事前に見ておいていただいて、参考にしていただけたらと思います。

○谷口隆明委員長 ハンドブックに載っているようですので、ぜひ中身を確認してください。これまでの話の中で皆さんから何か御意見がありますか。

○前田智永副委員長 皆さんないようですので、今後の動きとして一つ確認しておいたらいいなと思うのですが、一覧にあるように、それぞれA班、B班でこれから聞き取りをさせていただくことになっています。随時まとめで班ごとにしていただいて、また次回の会議等で共有しながら進めていけたらいいなと思います。9月になったら定例会もありますので、また途中経過を報告してもいいのかなと感じますし、どういった御意見があつたのかをまとめながら、しっかりと進めていけたらいいなと思いますので、よろしくお願いします。

○谷口隆明委員長　　まずB班が先行しますので、ぜひまとめていただいて、それを皆さんで共有して、それも参考にしながら。庄原は8月にありますけれども、当日の進行は、議会としてはヒアリングを行う目的を簡単に説明して、後は皆さんの意見を聞くことが主体になると思います。こちらからあれこれ言うのではなく、本当にいろいろな実態がありますので、それを聞くのが主となると思います。そういう立場で行っていただきたいと思います。先ほど言いました、10日にアンケートを取り行ったときに来られた市民の方の話を紹介しますと、お兄さんが病気で介護が必要ということで、自分は73歳まで仕事をしていたのだけれども、仕事をやめて東京から帰ってきたと。東京から帰ってみて一番驚いたのが、福代というところに住んでおられて、東城から1キロ余りなのですが、あまりバスがなく、タクシーで病院に行くと往復で3,000円かかったと。東京では初乗り運賃が600円くらいなのですが、東城は今800円なのです。僅か1キロ余りなのに3,000円もかかってびっくりしたと。医療費が1割負担になって医療費は安いと思ったら、その何倍もの交通費がかかってびっくりしたということで、東京にいた方は運転免許を持っていない方が多いので、近所にもう1人同じような方がおられて、その人と話をして、これは何とかならないかと。今、たまたま実証実験でバスが岡山まで走っている、そのバスを利用しているけれども、いつも利用するのは私だけだと。朝一番は高校生が乗るけれども、それ以外の8時台とかのバスはもう自分しか乗っていないので、バスは無理があるだろうから、何か車がなくても通える方策をぜひ考えてほしいと切々と訴えられました。確かに東京でも交通の便が悪いところがあるけれども、基本的には70歳を過ぎたら敬老パス等でどこでも自由に行けると。本当に環境がよくて、帰ってきてよかったけれども、この交通事情だけは本当にびっくりしたと言われましたので、そういう意見があったということで参考にさせていただきたいと思います。もっと言えば、初乗り運賃が800円とすごく上がっているのに、お兄さんは寝たきり状態なので使えないのですが、福祉タクシー券をもらっているけれども福祉タクシー券の単価がずっと昔のままだと。物価が上がって初乗り運賃も上がっているのだから、タクシー券も単価を上げないと、とても利用できないのではないかということも言うておられました。それは調べてみないといけないのですが、9月で実証実験が終わるので、そのバスがなくなったらもうどうしようかと。とりあえず、買い物とかに行くのが大変だと言っておられました。この方だけではなくて、結構そうやって都会から帰ってこられた方が困っておられることがいろいろあるようです。免許返納以前に、都会の方はもともと免許そのものを持っていない方が多くて、そういう方が帰ってこられて非常に困っておられるということもいろいろな話を聞くとおられておりました。

○福山権二副議長　　結局、今の報告は庄原市に住もうと思ったら免許を持っていないければ、もう自分でやれと放置されているということですね。

○谷口隆明委員長　　そうは言われませんが、東京から帰ってきて一番びっくりしたのが交通の不便さだと言われました。自分が生まれたふるさとなので環境もいいし暮らしやすいし、いいのだけれども、1点だけ本当に困っているのは交通の問題だと。だから、東城が嫌とか帰ってきたのがもう嫌だということではなくて、そういう交通手段だけは何とか、どこに住んでいても安心して暮らせるようにと言われるのであれば、そういう体制を考えてほしいと言われたということです。これはそういう実態があるという話で、東京から帰ってきて、家でこけてガラスでけがをして救急車で日赤病院に来たと。そうしたら入院まではしなくていいと言われたと。もう暗くなっていて帰る手段がないと。たまたま近所のお隣の方に電話したら、その人に迎えに行くとおられたからよかったけれど

も、いつまでも隣近所に甘えるわけにはいかないだろうから、何か対応が必要ではないかということも言われておりました。ですから、この特別委員会でそういう対応をどうするのか調査していることとかみ合った話だったので紹介しました。

○福山権二副議長　　今の日赤病院の話はこれからも主要な議題になると思うけれども、怒り心頭の電話をよく受けるので。帰ってくれと夜の12時頃に言われて、帰るのはいいけれども、歩いて帰るのかという話になったり、私はけがをしているのだが、日赤病院は庄原市から補助があるのではないかという話から、西城病院では帰れないときには泊まっていいと言ってくれたが、日赤病院はうちはホテルではないのだと帰されたという話がありました。

○谷口隆明委員長　　今のような例が東城の中に全部あるのです。病院に頼み込んで一晩泊めてもらって次の日に迎えに来てもらったとか、近所の人の好意で迎えに来てもらったけれども、それがなくなるときには隣の三次市の介護タクシーに依頼して対応してもらった、でも介護タクシーの手続にすごく時間がかかって大変だったとか、救急車で日赤病院に行き、タクシーやバスも利用できない時間になって、入院も泊まることもできないと。それなのにあしたまた再診に来いと言われて、どうすればいいのか困ったと。そういういろいろな例がたくさん出ていますので、今、福山委員が言われたように、そういう困ってる方はたくさんいるのだなと。冒頭で言いましたが、19人のアンケートの中で、この1年間で7人がそういう経験があったと答えておられるので、そういう意味では結構あるのではないかなという気がしました。よろしいですか、皆さん。堀内委員と松本委員、この前参加されて何か感想があれば、せっかくの機会ですから。

○松本みのり委員　　日赤病院に救急搬送されたけれども帰りの手段がないというのは比和でも同じく話題に上っておりました。近くにホテルがあるので、そことの連携が考えられないかという話もあったりするので、そちらについてもこの委員会で取りまとめをしながら、連携策を探るのも手ではないかなと思っています。あとは、透析患者さんの交通手段について、市でも補助があるけれども、2、3か月でもう使い切ってしまう状況なので、週に3回は通わなければならない一番大変な方たちだと思うので、そちらも何か策を委員会として考えていかなければならないと思っています。

○堀内富夫委員　　前田委員の報告にもあったように、地域間の助け合いが重要になってくるというところで一つ確かななと思ったのが、同じ世代同士の交流だけではなく、違う世代、違うレイヤーで交流をしないと、例えば、70代、80代の方で、そこが倒れられるともう誰も付き合いがなくなって、すぐアウトになってしまうので、少し下の世代とつながっていくという、階層を積み重ねないといけないのではないかなという声があって、確かななと思ったところがあります。全部が全部公共交通で賄うのはもう不可能なので、そこはそうやって地域の中でそういうコミュニティーをしっかりとつくっていく必要があるのではないかという声がありました。

○福山権二副議長　　堀内委員が言われたことについて、どこかがそういう努力をして悩んでいることがあるのですか。それとも、このようにしないといけないという理想を出し合っているだけですか。

○堀内富夫委員　　理想というか、そのようにしていけないと持続的ではないのではないかという意見だっと思います。それに対して市が何をできるかは考えていけないと思います。

○福山権二副議長　　そのように悩んでいるところはどこにでもあるのだけれども、本当にそういう議論をしてからつくろうとしているかどうかというのは違うので。確かに、そのようにしなかったら生きられない地域になっているので。人は少ないし、若い者もいないし、自治振興区の予算を減らそうと

いう議論もあるので。

○堀内富夫委員　　本当に公共交通だけに限らず大きい問題だと思うので、その辺も、包括的にというわけではありませんが、本当にいろいろ考えていかないといけないのではないかなと思います。

○前田智永副委員長　　先ほど堀内委員から御紹介があったのは、本当に地域の参加者の方の御意見として、こういう思いであると。こういったことも取組として必要だよねという御意見だったので、まずはその方の思いとして出していただいて、皆さんで共有させていただいたと。ここからどうするのかというところにはまだ至っていませんので、そういう意見があった、では地域で何ができるかという議論、もしくは市としてこういう取組があったらいいねとなるのかは今からなので、まだそこまでの議論にはなっていません。

○谷口隆明委員長　　今そういう意見を聞いている段階なので、最終的にはその意見を総合的にまとめて、行政として何ができるのか、あるいは地域での助け合いとかも必要だと思うので、そういう点については、全部終わってからまとめていきたいと思います。今日のところは、もし特にないようでしたらこれで委員会を閉じさせていただきたいと思いますが、皆さん、どうでしょうか。よろしいですか。

〔「はい」と呼ぶ者あり〕

○谷口隆明委員長　　それでは、これで委員会を閉じさせていただきます。

午前10時27分　　散　　会

庄原市議会委員会条例第30条の規定により、ここに署名する。

地域生活交通に係る調査特別委員会

委 員 長